

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	0191700012		
法人名	有限会社 松神建設		
事業所名	グループホーム灯り		
所在地	〒043-0504 久遠郡せたな町大成区都4 6 3 番地3 (電 話) 01398-4-5801		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年3月18日	評価確定日	平成21年5月19日

【情報提供票より】 (平成21年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	19年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	16 人	常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算 14.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	15,000~20,000円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (3月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.9 歳	最低 71 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	せたな町立国保大成診療所 せたな町立国保病院 道南ロイヤル病院 大成歯科診療所
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、漁業の町大成区にあり、その名の通り町に灯りを点し、多くの人が集う場所にしたいとの開設者の思いから設立された。事業所には、日ごろから近隣の住民が気軽に訪れ、魚や野菜などの提供も頻繁にあるなど地域との交流を行い、利用者も利用開始前からの地域との関係を継続したまま生活している。また、経営母体が建設会社ということもあり、個々の利用者の状況に応じて、手すりの取り付けやリフォームを行うなど、住環境が整備されている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員で話し合い、結果をまとめている。しかし、評価の結果を活かした、具体的な取り組みを行うまでには至っていない。管理者または担当者は、自己評価と外部評価の意義を再度確認し評価を活かしたサービスの質の確保、向上に取り組むことを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催され、事業所の現況報告のほか、多方面にわたる意見交換を行っている。また、会議の内容は、職員会議を通して職員に周知され、サービスの質の向上に活かされている。しかし、利用者の家族が会議に参加するまでには至っていないので、今後は、家族の代表などが参加できる体制が望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や電話などで家族の意見等をきくようにしており、意見等があれば速やかに職員へ周知を図り、家族からの意見や要望を運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、近隣の住民が気軽に事業所を訪れたり、利用者が地域へ遊びに行ったりするなど、地域との交流を深めている。また、地域の行事にも積極的に参加している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	愛情と尊厳と安心を基本とした事業所独自の理念を作り、玄関ホールやリビングに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時の研修会において、理念の理解を促し、共有を図っている。また、日常のケアの方向性が理念に基づいているか、常に確認しながらケアを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、近隣の住民が気軽に事業所を訪れたり、利用者が地域に遊びに行ったりするなど、地域との交流を深めている。また、地域の行事にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で話し合い、結果をまとめている。しかし、評価の結果を活かした、具体的な取り組みを行うまでには至っていない。	○	管理者または担当者は、自己評価と外部評価の意義を再度確認し、評価を活かしたサービスの質の確保、向上に取り組むことを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的を開催し、そこでの意見を職員会議を通して職員に周知し、サービスの向上に活用している。しかし、利用者の家族が会議に参加するまでには至っていない。	○	家族からの多様な意見をサービスに反映するためにも、家族の代表などが会議に参加するような配慮を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町とは、必要に応じ連絡を取り合い、スムーズな連携体制を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に広報誌を発行し、送付している。毎月の通院状況や金銭管理についても報告している。また、職員の異動も随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話などで家族からの意見をきくようにしており、意見等があれば速やかに職員へ周知を図り、意見や要望を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、必要最小限となるよう努力し、異動する場合は十分な対策の検討と利用者への説明を行い、利用者へのダメージをできるだけ少なくするよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会に加入し、定期的開催される研修会には、職員が積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会に職員が積極的に参加し、同業者との交流の機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、見学の機会を設け、事業所の雰囲気に徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が、職員と一緒に食事の支度や掃除の手伝いをするなど、共に支えあいながら過ごす工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活習慣や好みを把握し、職員間での共有を図り、現在の生活に活かす支援方法を検討して行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき介護計画を作成し、必要に応じてケアカンファレンスを開催している。しかし、介護計画作成の際、利用者または家族から、計画についての同意を得て交付している記録がない。	○	介護サービス計画書は、原案を利用者または家族に説明し、同意を得た上で交付することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的または変化に応じて随時見直し、現状に即した計画変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じ、通院や買い物等の外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携は、スムーズにとれている。また、協力医療機関のほか、利用者のかかりつけ医への受診支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対応できる体制にはないが、できるだけ早い段階から家族からの要望を聞き、その対応を行う方針でいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日ごろから、個人の尊厳を尊重した言葉かけをし、対応を行っている。しかし、表札やリビングの壁に飾っている写真や、広報紙に掲載している個人情報についての同意を、本人または家族から得ていない。	○	個人情報に関する取り扱いについては、十分慎重に行うことが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会議等において、職員のペースになっていないか確認し、食事や入浴などは利用者のペースや希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と協力し、食事の準備や後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った入浴の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や職歴を把握することに努め、その中で、食事の準備や後片付け、縫い物、掃除等、利用者が現在できることを考えて、役割づくりに結び付けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブなど、可能な限り外出の機会を設け、利用者がその日の希望にそって戸外に出かけるよう支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等に鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災に関するマニュアルが整備されていないため、防災訓練を実施するまでには至っていない。	○	事業所においては、特に火災発生時についてのマニュアルを速やかに整備し、職員への周知を図るとともに、消火・避難訓練についても定期的実施し、非常時に職員がスムーズに対応できるような取り組みを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事や水分の摂取量を記録し、職員間の共有を図り、変化があれば主治医と相談しながら支援している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に考え、季節感のある装飾品や写真を飾るなど、居心地良くすごせるよう取り組んでいる。また、不快な音や臭いもない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたベッドや家具を持ち込み、利用者それぞれの個性に合わせた、その人らしい居住空間を作り、居心地良く暮らせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。